

第一次食品放射能測定結果報告

群馬県内の米と土の放射能を計測してわかったこと

～ぐんま教育のつどい 2014・公開測定企画「実際にどうやって食品の放射能を測るの？」まとめ～

1. 経過

- 10/10 第4回部会の情報交換の中で「やはり食の問題が気になる」。
では「実際に測ってみよう」と、あんど測定所に電話。
- 12/12 第5回部会であんど測定所にて予備測定実施(前橋の米と土の2検体)
※ 県北の玄米、七分突き米、ヌカの3検体を後日測定で依頼。
- 2/11 ぐんま教育のつどい 2014・原発と教育分科会の公開企画実施(5検体)・・・計10検体
☆公開測定企画「実際にどうやって食品の放射能を測るの？」～食品に存在する放射性物質量の測定～

2. 企画のねらい

- ① 実際に測って、測定の方法を知ること
- ② 実際に基準内なのか確かめること

3. 測定結果

測定所:くらぶステーション(あんど測定所)

測定機器:CSK-2i(S/N:005)

単位:[Bq/kg]

検体		Cs137	測定下限	Cs134	測定下限	計	K40	測定下限
米	1) 白米・前橋	ND	強制定量	0.2	強制定量	0.2	97.9	強制定量
	2) 玄米・県北	ND	4.2	ND	1.4	ND	76.1	41.8
	3) 七分突き米・県北	ND	5.9	ND	2.0	ND	ND	59.8
米ぬか	4) 米ぬか・前橋	22.3	11.8	8.48	3.7	30.8	584	106.9
	5) 米ぬか・県北	16.7	4.0	6.0	1.3	22.7	608.3	36.9
	6) 米ぬか・熊本水俣	7.5	3.1	5.0	1.0	12.5	428	28.0
土	7) 土・前橋	54.2	10.2	23.0	2.7	77.2	260.9	84.2
	8) 土・県北	421	17.1	74.2	2.3	495	ND	92.2
他	9) 鹿肉・県南	52.4	7.0	7.79	2.0	60.2	ND	64.1
	10) 樹皮切り粉・藤岡	652	53.5	110	10.2	762	ND	375.9

※「強制定量」は不確かさを考慮せずに強制的に定量をおこなった結果です。「ND」は不検出です。

4. 考察

- (1) 精米した米からはほとんど検出されないが、米ぬかからは基準(100Bq/kg)内であるが2桁のレベルで検出された。このことから、玄米の表面に放射性物質の蓄積が推測される。
- (2) 群馬県の土は確かに汚染されており、県北ほどでないが前橋も汚染されている。
- (3) 九州の米ぬかからもわずかであるがCsが検出されたということは、九州にも放射性物質が飛来している可能性が疑われる。
- (4) 鹿肉も基準内とはいえ基準の半分以上の汚染があり、野生動物の放射性物質の摂取・蓄積が読み取れる。
※今回の測定は検体数が少なく、もっと多くのデータでの検討が必要と思われる。

5. 結論

- ① 実際に測って、どういう機械で測るのが分かった。ただ、機械によって精度が異なるという。ほかの機械での比較も検討の必要がある。
- ② 米は玄米・精米ともほぼ不検出であったが、米ぬか、鹿肉は基準以内とはいえ、かなり蓄積していることが分かった。従って、玄米は精米する方が望ましく、それを口に入れるかどうかは一人ひとりの判断となる。
(おわりに) 流通している食品の放射能の含有状態はどうか、検査実態はどうか、気になるところである。時間を空けて定期的に計測することが重要で、その社会的体制づくりが必要ではないだろうか。

《文責:坂田 尚之》